

地球温暖化対策計画書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	中部日本放送株式会社
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市中区新栄一丁目2番8号
工場等の名称	CBC会館 および 放送センター
工場等の所在地	名古屋市中区新栄一丁目2番8号 および 3番8号
業 種	サービス業(他に分類されないもの)
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)
事業の概要	一般放送事業
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公表期間	令和4年7月31日 ～ 令和7年3月31日		
公表方法	○	掲示 閲覧	(場所) CBC会館1階掲示板に掲示、会館受付で閲覧可能。
		ホーム ページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	TEL 052-259-1324		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

〔C B C 環境方針〕

- ・ 私たちは、放送番組や事業活動を通じて、環境問題の切実さを訴えるメッセージを発信します。
- ・ 私たちは、自らの企業活動により生ずる環境負荷の低減に努めます。
 - ① 電力をはじめとする消費エネルギーの削減に努力します。
 - ② オフィスのゴミの分別を徹底します。
 - ③ 再生紙の利用を促進するとともに、オフィスで使用する紙の節減に努めます。
- ・ 私たちは、環境関連の法令、規則、社内規定を遵守します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

- ・ 総務部をはじめ管理部門が中心となって上記環境方針を社内に周知徹底し、当社で働く全ての関係者が一丸となって環境の改善に寄与する活動に取り組みます。
- ・ この環境方針と、それに基づくさまざまな取り組みについて、地域との連携を深めるため、随時、ホームページなどで情報公開してゆきます。

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 3 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,017	t-CO ₂
① （温 室 ガ ス 除 く 換 算 ）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	3,017	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 6 年度 目標削減率	
		t-CO ₂		t-CO ₂		%
温 室 効 果 ガ ス 総 排 出 量						

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 6 年度 目標削減率	
		kg-CO ₂ / 千m ³ 時		kg-CO ₂ / 千m ³ 時		%
原 単 位 あ た り の 排 出 量	10.51		8.692		17.3	

（2）目標設定の考え方

前回（H30～R3）は目標値（原単位当たりの排出量3%削減）に対し、会館リニューアル工事期間中の数値悪化により－11.3%という結果になっている。今回は工事完了による数値改善分が見込まれることから、目標設定値は前回未達成分（－14.3%）を含んだ削減率としている。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギーの 行動実践 冷暖房	・冷暖房温度の適正化継続 ・無駄な運転時間の排除 ・機器更新に当たっては、省エネ性能を重視して選定	夏季：28℃ 冬季：22℃
省エネルギーの 行動実践 照 明	・不必要な照明の消灯徹底の継続 ・照明一部間引きの実施 ・LED照明設備への切替	
省エネルギーの 行動実践 OA機器 自動販売機など	・OA機器の省電力モードへの移行時間の見直し ・機器更新に当たっては、省エネ性能を重視して選定	
省エネルギーの 行動実践 エレベーター	・夜間、休日の運転台数削減の継続	・台数の1/3～1/2を停止

指針第1号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

--

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--